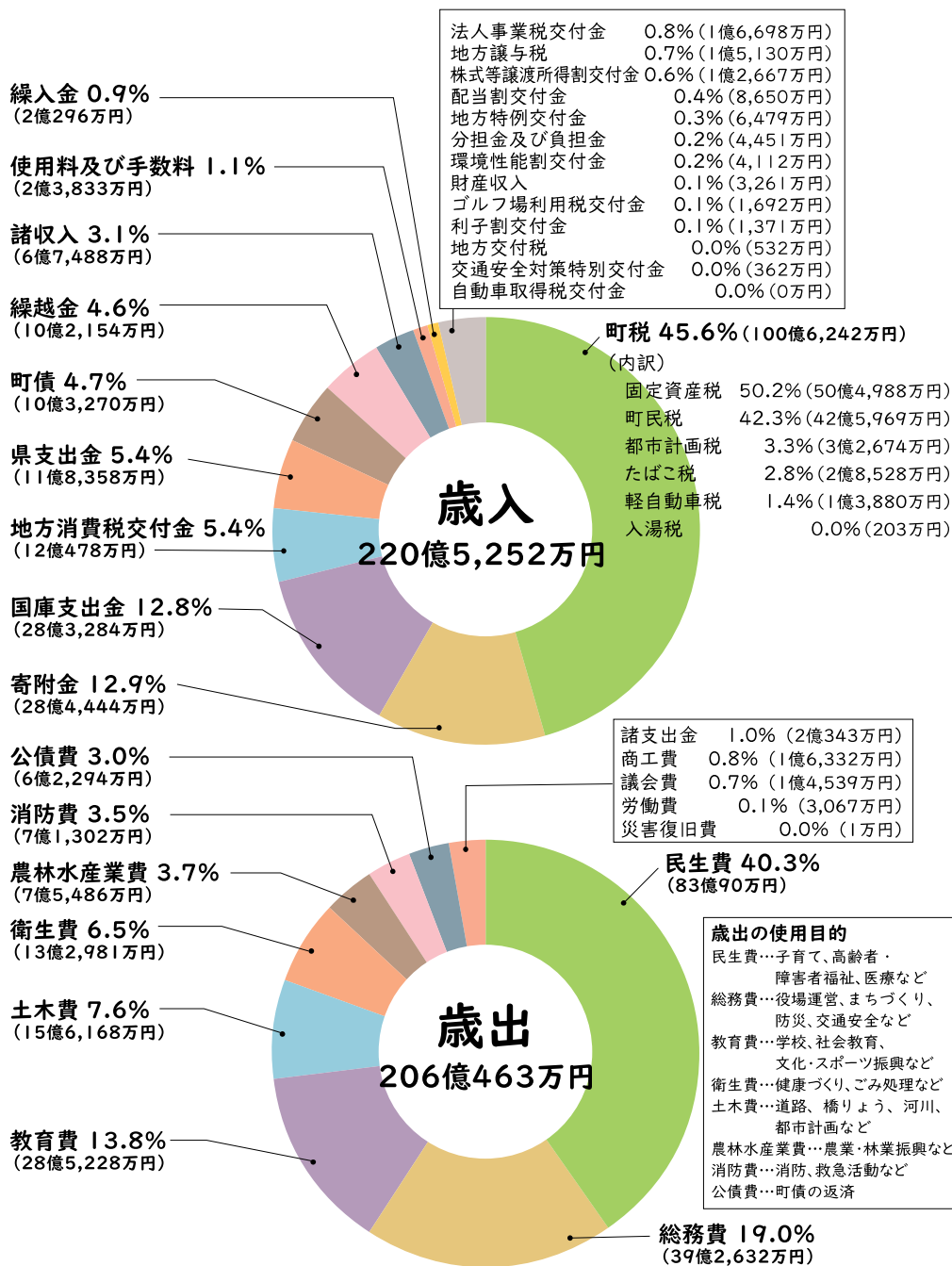


令和7年度決算報告と町の財政状況

わが町のお金の使い方

一般会計



皆さんが納めた大切な税金や国・県からの補助金は、まちづくりにどのように使われたのでしょうか。

令和7年度の決算の概要と町の財政状況について、「えこたん」の解説を交えてお知らせします。

えこたんの解説



令和7年度は令和6年度と比べると歳入歳出ともに若干増えたよ。

海外情勢や米不足による影響から物価高騰を受けた年だったけど、国・県からの補助金を使いながら給付金の支給がされたんだ。

そのほかにも町の明るい未来に向けて、さまざまな事業が行われたよ。

まちづくりでは、福祉や都市計画、環境などの個別計画を推進するための理念計画として、第7次幸田町総合計画が策定されたよ。また、学校での授業中や災害時の避難所が快適に過ごせるように、小学校の体育館の空調整備や、物価高騰に対して皆さんに生活支援チケットの配布、高齢者生きがいセンターを横落区から大草区に移転改修がされたよ。

一般会計のほかには、4つの特別会計と2つの公営企業会計があるよ。特別会計は、特定の事業のために財布を分けて管理する会計なんだって。公営企業会計は水道事業会計と下水道事業会計のことで、町の水道事業と下水道事業はここで運営されているよ。町の大事なお金はみんなの安心した暮らしのためにこうして役立てられているんだね。

決算状況

会計名			歳入(a)	歳出(b)	差額(a)－(b)
一 般 会 計			220億5,252万円	206億463万円	14億4,789万円
特別会計	土 地 取 得 特 別 会 計		4億円	4億円	0万円
	国 民 健 康 保 険 特 別 会 計		33億1,434万円	32億7,136万円	4,298万円
	後 期 高 齢 者 医 療 特 別 会 計		7億1,038万円	7億894万円	144万円
	介 護 保 険 特 別 会 計		26億434万円	24億9,737万円	1億697万円
公営企業会計 (税抜き)	水 道 事 業 会 計	収益の収支	8億2,387万円	7億251万円	1億2,136万円
		資本の収支	6,835万円	3億1,760万円	▲2億4,925万円
	下 水 道 事 業 会 計	収益の収支	12億9,298万円	12億6,076万円	3,222万円
		資本の収支	4億29万円	5億5,053万円	▲1億5,024万円
総 合 計			316億6,707万円	303億1,370万円	13億5,337万円

目的税と交付金・譲与金の使いみち

*「充当額」とは、その目的のために使った金額のことをいいます

都市計画税

目的	事業費	充当額
道路新設改良	6,273万円	2,707万円
土地区画整理	6,399万円	5,802万円
公共下水道	2億6,648万円	2億4,165万円
合計	3億9,320万円	3億2,674万円

地方消費税交付金（社会保障財源分）

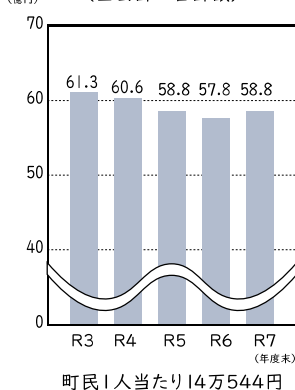
目的	事業費	充当額
社会福祉	43億4,601万円	3億2,469万円
児童福祉	39億5,484万円	2億7,364万円
保健衛生	6億6,900万円	7,012万円
合計	89億6,985万円	6億6,845万円

入湯税

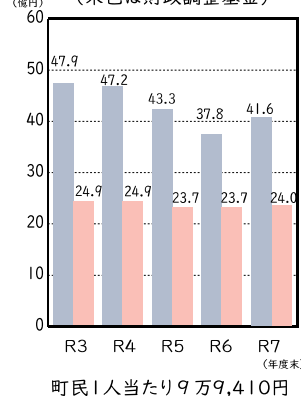
目的	事業費	充当額
観光	1,956万円	204万円

森林環境譲与税譲与金

目的	事業費	充当額
林業振興	877万円	826万円

町債残高の推移
(全会計の合計額)

借金（町債）の残高は、58億7559万円です。道路や学校などの、長期間利用する施設を造るときには、一度に多額のお金が必要です。このお金を関係機関から借りて財源とするのが町債です。町債は町の借金ですが、これを適切に活用することで、建設負担を現世代と将来利用する世代とで公平に分けあうことができます。

基金残高の推移
(朱色は財政調整基金)

令和7年度末の貯金（基金）の残高は、約41億5593万円です。町では、大幅な税収減や災害などに備える「財政調整基金（約23億9869万円）」をはじめ10の基金を積み立てています。

貯金と借金

財政状況を家計に例えてみると？

令和7年度の一般会計決算額について町民1人当たりの金額を計算し、皆さんになじみやすい家計項目に例えてみました。

収入

給料(町税など)	36万1,711円
親からの援助 (国・県支出金など)	14万1,083円
ローン(町債)	2万4,702円
合計	52万7,496円

支出

食費(人件費)	11万5,540円
医療費(扶助費)	9万8,435円
ローン返済(公債費)	1万4,901円
光熱水費(物件費)	9万9,859円
自宅の修繕(維持補修費)	6,602円
町内会費や募金(補助費等)	5万9,059円
貯金(積立金)	1万920円
投資や運用 (投資及び出資金、貸付金)	7,068円
仕送り(繰出金)	2万1,562円
自宅の増改築 (普通建設、災害復旧費)	5万8,917円
来年度に支払うお金(繰越明許)	3,082円
繰越金(実質収支)	3万1,551円
合計	52万7,496円

えこたんの解説

家計と町の財政ではお金の使い方も規模も違うから単純には比べられないけど、こうして眺めると感じがつかめるね。

町がこの先も、住む人みんなが幸せを感じられる町でいられるように、お金を大切に使うことが重要だよ。



町民一人当たりの金額は、令和7年度の一般会計決算額を総人口41,806人(令和8年3月31日現在の住民基本台帳人口)で割ることにより計算しました。

健全化判断比率と資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、町の令和7年度決算に基づく「健全化判断比率」と「資金不足比率」をお知らせします。

4つの指標で厳しくチェック 健全化判断比率

全国の地方公共団体は、毎年度の財政状況を統一的に確認するために、4つの財政指標である「健全化判断比率」を公表することが義務付けられています。これらの指標を1つでも早期健全化基準を超えた場合はイエローカード「早期健全化団体」となり、財政状況を改善するための計画を作らなければなりません。町は、いずれの指標も基準を下回りました。

4つの指標	健全化判断比率	基準値
実質赤字比率	—	13.17%
連結実質赤字比率	—	18.17%
実質公債費比率	1.0%	25.0%
将来負担比率	—	350.0%

*「—」の項目は黒字のため、数値が計上されていません

赤字はありませんか 資金不足比率

「資金不足比率」は、公営企業会計における料金収入に対する資金不足額(赤字額)を確認する指標です。経営健全化基準を超えた場合は、経営を健全にするための計画を作らなければなりません。町には、資金不足を生じた公営企業会計はありませんでした。

公営企業会計	資金不足比率	基準値
水道事業会計	—	20.0%
下水道事業会計	—	20.0%

*「—」の項目は黒字のため、数値が計上されていません

えこたんの解説



町は法律の基準を全部クリアしたよ。これからも健全な財政を心掛けていくよ。

決算審査報告

幸田町監査委員

大浦 裕
まつもと ゆたか
松本 忠明

決算審査に付された各会計決算書などは、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行はおおむね適正であると認められた。財政指標の健全化判断比率などについては、全て健全な数値と認められた。

令和7年度決算は、大手自動車関連企業の業績の影響などにより、町税全体としては、100億円を上回る結果となったが、年々増加する義務的経費や公共施設の維持改修費及び新規事業に要する経費などその他の経費においても増加要因が多く、今後も予算を許さない状況が続くものと思われる。事務事業の必要性・有効性・効率性に視点を置いて、的確な予算配分等も含め、適正な公金の支出と事務処理に心掛け、町の発展のため、なお一層職務に精励されたい。

生活支援チケット



小学校体育館空調設備設置工事



高齢者生きがいセンター移転改修工事

令和7年度の 主な事業

町民の皆さんの未来につながる
暮らしやすいまちづくりに
取り組みました



肖影堂組立工事（本光寺）



中央公園整備事業



三ヶ根駅西口整備工事

問合せ 財政課 財政グループ ☎(0564)62-1111(内線323) FAX(0564)63-5139